



竹の里・乙訓

京都西山 竹の里・乙訓



世界遺産・金閣寺の竹垣を手掛ける大山崎町の竹垣職人の作品「勝龍寺垣」



乙訓名産の竹工芸品を生み出す職人がレクチャーする竹細工体験



乙訓地域特有の形をした「ホリ」と呼ばれる専用のクワを使って名人がたけのこを掘る



洛西竹林公園内庭園の京情緒あふれる竹の小径は撮影スポット



たけのこ専用の畑で栽培される名産品「京たけのこ」は名店御用達



京たけのこ料理の代名詞とも言える老舗料亭「錦水亭」

美しくしなやかに 豊かな文化を紡ぐ竹の里

今は昔、竹取の翁といふものありけり。

この語り出しで古くから親しまれる日本最古の物語『竹取物語』。物語の舞台と伝わる地のひとつが、嵐山から連なる西山連峰の麓に広がる乙訓（おとくに）地域です。この地域は、鎌倉時代の高僧が唐から持ち帰った孟宗竹が根付いたとされる、千年以上の歴史をもつ「竹の里」。平安時代の文献には箸として用いる竹が朝廷に納められたとする記述があり、清少納言の『枕草子』にも美しい竹の景観が描かれています。

先人はしなやかで美しい竹の特質に着目し、知恵と工夫を凝らしてさまざまなものを生み出してきました。京都で花開いた茶の湯の文化を、建築や工芸品を通して支えてきたのも乙訓地域の「京銘竹」なのです。

そして、もう一つ忘れてはならないのが、最高級の品質を誇る「京たけのこ」。えぐみが少なく、風味が豊かで、その白さや柔らかさから「白子たけのこ」とも呼ばれる京たけのこは、この地で編み出された伝統的な栽培法（京都式軟化栽培法）により、今日も大切に育まれています。



古代首都・長岡京の官寺、乙訓寺。京都屈指の牡丹の名所として名高い



史跡長岡宮跡に立つ旧上田家住宅には長岡宮をイメージしたフォトジェニックな襖絵が



「山崎の合戦」に敗れた明智光秀が最期の夜を過ごした勝龍寺城



桂川、宇治川、木津川の3つの川が合流する雄大な景色を天王山より望める

二度も都が置かれた 歴史の交差点

京都西山・乙訓地域にその昔、「長岡京」という都があったことをご存知でしょうか。七八四年、桓武天皇は新たな国づくりのため、奈良の平城京から京都と大阪の間に位置する乙訓の地に都を遷しました。乙訓を選んだ理由について、天皇は次のように述べています。

「朕（ちん）水陸の便あるを以て都をこの邑（むら）に遷す」

つまり、東に桂川、西に丹波道、北には山が控え、南方に巨椋池（昭和期に干拓）があった乙訓は交通の利便性に恵まれた理想的な環境だったのです。もともと、そこに目をつけたのは桓武天皇だけではありませんでした。実は、長岡京遷都の二五〇年以上前、継体天皇は古くから淀川水系の交通の要衝として栄えていたこの地に「弟国宮（おとくにのみや）」を置き、勢力の拡大に成功したといわれています。

桓武天皇が築いた長岡京は一〇年間でその役目を終えましたが、その後も「京の西の玄関口」として、明智光秀VS羽柴（豊臣）秀吉の山崎の合戦など、時には日本の歴史を動かす戦乱の舞台にもなりました。大きな時代のうねりのそばに乙訓は在り続けたのです。



京都屈指の紅葉&青もみじ名所、光明寺。期間限定で花手水も登場する



関西きっての金運のパワースポット宝積寺。秀吉の伝説にまつわる三重塔も



花手水発祥の地、柳谷観音。とくに紫陽花のシーズンは賑わいを見せる



長岡天満宮のシンボル、八条ヶ池。日本有数のクリスマスツツジの名所

いにしえのセレブたちが
こよなく愛した西の別天地

西山連峰に沿って南北に数々のお寺や神社が点在する乙訓地域。「西山三山」と呼ばれる善峯寺、光明寺、柳谷観音楊谷寺をはじめ、聖武天皇の勅願で建立された宝積寺や、菅原道真ゆかりの長岡天満宮など、枚挙にいとまがないほどの充実ぶりです。

平安京遷都とともに政治や経済の中心地ではなくなったものの、乙訓の社寺は豊かな自然とともに、その後も人々の心の拠りどころとされたのでしょう。極楽浄土が西方にあるとする西方浄土の仏教思想や、現世利益を得んとする観音信仰の隆盛とも相まって乙訓の特別感是一段と増し、やがて支配者層のステータス・シンボルに……。天皇をはじめ公家や武家の有力者は、ゆかりのある社寺に多大な援助を行ったほか、広大な領地を得て別邸を築く人物も現れました。

例えば、桂離宮を造営したことで知られる八条宮家は、領地の長岡天満宮に広大な池（八条が池）を築造し、自然と建築が調和する優美な景観の礎を作り上げました。彼らの信仰心と美意識、自然を慈しむ心から紡ぎ出された独特の文化は、今も乙訓を照らし続けています。



アサヒビール大山崎山荘美術館



長岡京ガラシャ祭



柳谷観音の花手水



竹の径



大山崎 COFFEE ROASTERS



麒麟園の担々麺

それぞれの個性が光る乙訓二市一町の「いま」

乙訓地域を構成する向日市、長岡京市、大山崎町の二市一町は、地理的・歴史的・文化的な共通点をもつ、いわば兄弟のような関係。強い絆で結ばれながらも、それぞれのオリジナリティを発揮しています。

●向日市

向日市は、「西日本で一番小さな市」に新しい魅力がギュッと詰まった味わい深いエリア。竹の里の風情を今に伝える散策道「竹の径」や、明治神宮のモデルとなったといわれている創建一三〇〇年の古社など、歴史的なスポットが点在する一方、近年は激辛の聖地として新たな魅力を発信中。「京都向日市激辛商店街」の名のもと、市内六十店舗以上のお店が激辛にちなんだ多彩なグルメやグッズなどを提供しています。

●長岡京市

向日市の南に位置する長岡京市は、明智光秀の娘・玉（ガラシャ）ゆかりのまち。この地にあった勝龍寺城で細川忠興と結婚し、幸せな新婚時代を過ごしたとの逸話にちなみ、毎年十一月に「長岡京ガラシャ祭」が行われます。その華やかさに引けを取らないのが、柳谷観音楊谷寺の花手水（はなちょうず）。SNSで話題となり、全国に広がった花手水の元祖の美をお見逃しなく。

●大山崎町

大山崎町といえば、羽柴（豊臣）秀吉が明智光秀を討った「山崎の合戦」の舞台として天王山が有名ですが、千利休ゆかりの国宝茶室・待庵（たいあん）や、アサヒビール大山崎山荘美術館など、建築・文化のジャンルでも見どころ満載のエリアです。あふれ出る文化の香りによるものなのか、近年は店主のこだわりが詰まった個性派ショップも増えています。